

経営者への活きた言葉

精神的バックボーンを取り戻せ 月尾 嘉男(東京大学名誉教授)

1. このまま進むと日本はどうなってしまうか心配になる。経済発展一途で経済大国になることには成功したが、政治の劣化、論理の消滅、文化の崩壊は増大した。隣国の中国や韓国からは日本攻撃の発言や行動が頻発しているが、国家として毅然として反撃する態度を示さないどころか、敵に塩を送る愚者までいる。
2. 日本は百年先を見据えた戦略の転換を迫られている。そのためにはまず明治維新以降の百数十年と、これから先の百数十年とはまったく別の社会だという認識を、政治家や官僚はもちろん、国民一人ひとりが持つ必要がある。
従来の常識は非常識に、成功体験は必ず失敗につながるというほどの覚悟を持ち、新しい社会を構築していくべきで、そのために、変えるべきはちゅうちよなく変える必要がある。
中央集権から地方集権に、官公への過度の依存から民私主体に、いまこそ転換への舵を切るべきである。
3. また、現在の日本人の多くには国家観や歴史観がなく背骨がない状態だと言える。そこで日本人は新しい時代の精神的原点となる思想を見出す努力をしなくてはならない。
台風や地震が襲来する過酷な自然環境の中で二千年以上生活してきた日本人は、その自然と共存しながら社会を維持してきた文化こそが自身の精神的基礎にあることを知るべきである。

(参考:「致知」2012年6月号)

人事・労務について

「プロセス」を正當に評価する 鈴木 豊(キューピー相談役)

1. 大阪で支店長をしていた頃から、部下の評価では「プロセス」をきちんと見えるように心がけてきた。それは「結果がプロセスを規定してしまう」ということがよくあるからだ。いい結果を出せば「プロセス」は問わなかったり、どんなに努力しても結果が伴わなかったら「プロセス」も悪い評価にしたりするようでは、人は育たない。
2. 得意先が好調なおかげで業績を伸ばした人は、その結果だけで評価される「プロセス」への意識が甘くなってしまう。一方、頑張り認められなかった人は、「こんなものか」となって、やはり「プロセス」に対する努力が緩慢になる。両方とも伸びなくなる。
「プロセス」価値を根づかせるのに大事なことは、上司や先輩が部下を見つめて、見守ることです。プロセスは毎日の積み重ねですから、日頃からコミュニケーションを深める必要がある。

(参考:「日経ビジネス」2012年3月5日号)